

0 150 cm 10 20 30

SEIKO JUSHI

插題和歌集

544
テ
6

摘題和哥集
十戀部

老後初戀

慈鎮

後載

初尋縁恋

法皇御製表

わいしんあつとむいふあふれにまうけり

定家

かゝるもの事ふいふあふれにまうけり

為家

あふれにまうけり

為家

あふれにまうけり

阿佛




~~~~~

尋野狐意

意法

~~~~~

不尋得意

尋初意

~~~~~

為失意

藤原時昌

~~~~~

乃後古

尋初意

~~~~~

波如意

後二位賴政

~~~~~

尋傍人意

小侍後

~~~~~

尋初意

意法

~~~~~

尋初意

後收

~~~~~

同聲意

宣家

~~~~~

為意

~~~~~

為意

~~~~~

佛

~~~~~

為不達意

後二修元

仍舊

~~~~~

頃

~~~~~

忠待

友家

~~~~~

後

忠達

友家

~~~~~

後

忠別

友家

~~~~~

後

忠達

友家

~~~~~

下

忠傳

友家

~~~~~

忠通

入道

下

~~~~~

~~~~~

忠親

友家

~~~~~

友家

~~~~~

友家

~~~~~

友家

~~~~~

友家

~~~~~



河川を幸ふ所は

教の如きものありては、心は正しくなりて、

卷之五

[illegible]

其の神の心は、  
 天の地の  
 神の心は、  
 天の地の

大坂のりまにわをめぐ

依愚所達意

平忠度

如法三寶院  
道方因大

憶松院門製

西山先生文集

師美

王師門虎王寧相

今一巻の終りなりと云ふ



忠經年表

忠經

忠經年表

忠經年表

法師澤井

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表

忠經年表



何物之深也

[illegible]

*[Handwritten signature]*

へんろくしむきぬあはれなきはやく<sup>す</sup>物とすべしとてふ

*[Handwritten signature]*

あまをくさしうきをくさし何れか<sup>た</sup>くさしうきをくさし

My dear Mr. Garrison -

夢をいそ月夜をよめる  
海ふいつ、あゝ

わが心をなやませよ

[illegible]

とてはかりにきくはるかにあつた

[illegible]



[illegible]

三

待費門流掘河

[illegible]

東見

中興

この書は、明治二十年（一九一三年）に、

時見之

物改

ふたつあるに、この紙の名となつてゐるが、みづからいふ

未對面急

後成卿

今迄能くおこなふに可きものなり

劉永福

中東師範

新續古

志強

ふくちゅうなうしやうきん

Handwritten signature or name.

修業

勢にほころびて今もいまだに小人をい

新不達志

陳德猷

[illegible]

贈與之徒為子

[illegible]

定家

山あり川あり花あり鳥あり  
 山あり川あり花あり鳥あり

疾不逾志

左集文於補

Handwritten signature: *John W. Smith*

前之細之為中

山崎のふりかへて急ぎ少いふ少いふとて  
 山崎







終見え

後成卿

僅見え

小信後

行臥見え

室家

雅徑

見不見え

徒三行中

初見え

老後

やう見え

彈弓那首歌

初見え

聞見え

室家

聞見え

雅徑

初見え

老後

初見え

雅徑

初見え

老後

初見え

室家

初見え

やう見え



定歌

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

の巻末

後之信為信

わが心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

の

後之信為信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

如所

少後—いふとて年の秋の杜の—あま

の巻末

初之志

はるの巻末

まゆねの心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

後之信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

二宗は親王定歌

の巻末

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

凡新

初之志

後之信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

の巻末

初之志

孫系信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

の巻末

後之信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

後之信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

小信

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま

初之志

定歌

かゝるものゝ心はなほいふとて年の秋の杜の—あま



後重松

後重松

秋の夕べにきくはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

秋の夕べに

秋の夕べに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

後重松

後重松

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかに

きこゆるはるかにきこゆるはるかにきこゆるはるかに



元後集

初年集

元後集

平明集

元後集

元後集

元後集

後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集

元後集



契據約意

意法

約契約意

後記

契據約意

大帥道政

契據約意

後記雅宗

契據約意

後記雅宗

契據約意

後記雅宗

契據約意

前大帥意法

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意

契據約意



萬葉集

夕隱西待意

後集

秋夕待意

物行

あけ待意

權大御之明

物行

曉待意

深衣待意

權大御之經任

後集

後集

後集

後集

凡推

後集

後集

連衣待意

物行

凡推

後集

師兼

後集



新月の人

鎌倉の古

~~~~~

對月の人

藤原基光

~~~~~

~~~~~

月影の人

今川了俊

~~~~~

~~~~~

~~~~~

園田宗政

~~~~~

~~~~~

赤中綱正

~~~~~

牙行の人

長谷川直親

~~~~~

~~~~~

希行の人

金田一

~~~~~

送書の人

柳

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


修

曉

今

~~~~~

東

師

~~~~~

修

~~~~~

修

前

修

~~~~~

修

雅

~~~~~

修

今

~~~~~

修

今

修

~~~~~

修

~~~~~

修

~~~~~

修

修

~~~~~

修

雅

~~~~~

修

~~~~~

修

修

~~~~~



ふみあき

後宮様

はるばるいふくちの御世にあらはれし御事

於て御事

の御事なるにあらはれし御事

後宮様

白紙に宛てて

の御事なるにあらはれし御事

宣旨

の御事なるにあらはれし御事

為次

の御事なるにあらはれし御事

御佛

の御事なるにあらはれし御事

御行

の御事なるにあらはれし御事

新中宮様

慈徳

の御事なるにあらはれし御事

稀達

太上天皇

の御事なるにあらはれし御事

稀達

友東殿

の御事なるにあらはれし御事

所執今遇

後宮様

の御事なるにあらはれし御事

及院家

新中

の御事なるにあらはれし御事

後宮様

新中

の御事なるにあらはれし御事



新虎中御

二

北後門院御

同

後主氣御

修治院

也

~~~~~

~~~~~

秋列意

西御高様

~~~~~

後光孝院御

~~~~~

仰集

~~~~~

恒曉列意

小侍候

~~~~~

月系列意

右上天皇

~~~~~

系列意

推中御高様

~~~~~

張列意

平清時

~~~~~

山家後御意

源家高様

~~~~~

後鳥羽意

皇太后宮女御



乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

列後金難期

秋

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

後金難期

日

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後

何んぞ此の如くぞあるやと云ふは其の如く

乃如後



續載

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

為

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書

移書



彭德怀

[illegible]

隨口隨意

雅經

[illegible]

逐夜增急

糴政

[illegible]

南朝志

卷之九

よふかきねほろきいひさしめ

簡園詩

Handwritten signature: *James M. Smith*

糧政

*Handwritten signature*

虫聲情愛

总编

[illegible]

聞虫聲情急

卯の酉をすしあハキル<sup>キ</sup>人<sup>ノ</sup>の神といはや

後集

五ノハナニシテ

惠依月增

正位顯家

續於通

たゞいふに止るべし

糴政

いふもはちうめ松のきくにやと月那

依兩增色

小傳

乙卯

Handwritten signature or scribble.

西華坊志

穆政



~~~~~

関ヶ原

後部

~~~~~

長門

後部

~~~~~

春田

葉部

~~~~~

宣部

~~~~~

中

~~~~~

石部

~~~~~

諸侯

~~~~~

諸侯

~~~~~

金部

諸侯

~~~~~

秋風

維部

~~~~~

金部

~~~~~

建部

權中

~~~~~

寒夜

權中


~~~~~

言如後

~~~~~

歌歌

伴辰

~~~~~

仲兼

同

~~~~~

依後

友東為今

~~~~~

惟素老若

同

~~~~~

解兼

~~~~~

依後

友東為道

~~~~~

依後

法下素運

~~~~~

始河

~~~~~

依後

源兼康

~~~~~

依後

始河

~~~~~

依後

友東為今

~~~~~

依後

源兼賴



三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

師兼

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況

三井物産

大正初年

三井物産の発展と大正初年の状況



蒲東路志

意經

雅經

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志

意經

蒲東路志







仰兼

~~~~~

額行末系

粧収

~~~~~

被一朕意

糸道官經

傍記

~~~~~

被朕賊意

五様

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

兼一朕賊意

三安

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

賊意思度也

雅經

~~~~~



師兼

長

西二

務

長

西二

務

長

西二

親雅

長

親雅

長

西二

務

長

西二

務

師兼

長

西二

務

長

師兼

長

西二

務

長

西二

親雅

長

親雅

長

院御

院御



月

秋の暮るるを思ふに

月

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

月

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

月

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに

秋の暮るるを思ふに



隱居  
隱居

隱居  
隱居

隱居  
隱居

隱居  
隱居

隱居  
隱居

隱居  
隱居

教居原意

惟經

不知在野意

師兼

隱在野意

法師實

不離絕隱意

物改

隱文集和款意

後意

藏書意

物改

讀書意

物改



~~~~~

通書

權大卿

~~~~~

凡雅

注下

~~~~~

文被反

美濃

~~~~~

又

後成

~~~~~

失反事

賴政

~~~~~

廣邊事

雅經

~~~~~

後德寺

~~~~~

見反事

雅經

~~~~~

不反事

顯仲

~~~~~

仲實

~~~~~

後賴

~~~~~

不反事

小清

~~~~~

二年

始

新撰

新撰

新撰

新撰

新撰

新撰

新撰

新撰

新撰

通見返事

小侍長

通見返事

源行

通見

通見

通見

通見

通見

通見

17

新書

相殿

行書

未冊書寫

未冊書寫

權中細書

行書

蘇東坡

師範

相殿

晚間書寫

二重及落後

先院書寫

落筆極

新書

未冊書寫

權中細書

師範

相殿

林のむすもとのさくらにさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

有る

神保町神保町

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

被褥人

雅経

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

院師教

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

さくらさくらにさくらさくら(花)のうらみ

有る

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

衛稀志

伊兼

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

柿馨志

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

貞志

家澄

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

くさあはれしき人

後成那

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

秋盛志

相取

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

院風催志

雅經

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

あ我

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

東時村

あはれしき人

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

風多催志

妙内

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

厚多催志

雅經

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

猶物催志

水宿門院

あはれしき人

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

通心志

あはれしき人

あはれしき人

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

人傳志

年念法師

あはれしき人

あはれしき人なほあはれしき人なほあはれしき人

津志

新行

~~~~~

初津志

二重反澤渡

~~~~~

中兼

~~~~~

忠実篤志

後成郷

~~~~~

流石人

後重松

~~~~~

常中志

新行

~~~~~

常中志

新行

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

志天志

権事初志

~~~~~

凡雅



長履

伏見院御衣

夜半意

好徳寺の古書

書本思慕

後書極

意積

夕陽出意

後書極

見物思慕

頼の

おもしろい

意積

石通意

頼の

中兼

限一夜意

頼の

中兼

の載

新書長考

言意友人

仁和寺入道親王受性

の載

おもしろい



後至在

氣  
 暖のたふと海ありけり  
 無極意  
 後重花

雅經

支那の政治の発展を期すに  
必要なるものありと云ふ人  
は多し

糴政

くちやちやかゝるしを中におきこむのこころをいふなり

頤仲

乃を我れ教へて居るをいふなり

仲賓

まのちをいふはうきものなり

卷之五

Chlorophyllin

懷素

秋多井、雪をうけ、いよいよとや春交ふて、けしきも

立杖意

とうに秋のふくやうぬちかひなりてふのうづ

卷之六

わが国は、秋の別れの季節である。

權中納之傳

新橋

Handwritten signature or scribble.

少時

いんてんがくはういんてんがくは

後方羽虎印和衣

明・李時珍・本草綱目・卷之六・木部・槐

並結

[illegible]



城外恋

故郷の神を慕ふ心はいつとなく旅を

津景余を 後宮様

侍御の心はいつとなく旅を

不觸宿地を

列をききつゝいつとなく旅を

山吹夕を

三信を

いづれかいつとなく旅を

国古を

山吹

旅の言をいつとなく旅を

故郷を

後宮様

いづれかいつとなく旅を

いづれかいつとなく旅を

おきき余

人

故郷の神を慕ふ心はいつとなく旅を

国古を

後宮様

いづれかいつとなく旅を

故郷を

後宮様

いづれかいつとなく旅を

馬を

いづれかいつとなく旅を

後宮様

後宮様

いづれかいつとなく旅を

後宮様

後宮様

いづれかいつとなく旅を

羅中候を

雅経

いづれかいつとなく旅を



舟裏迄

後至極

~~~~~

秋迄迄

山侍良

~~~~~

被迄迄

新東整方

傍後探

~~~~~

被迄迄

楊政

~~~~~

志迄迄

宣政

~~~~~

為政

~~~~~

為政

~~~~~

為佛

~~~~~

仰業

~~~~~

難迄

少侍良

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



儒古

何はともかく、その結果として、

新煥然

44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525  
 526  
 527  
 528  
 529  
 530  
 531  
 532  
 533  
 534  
 535  
 536  
 537  
 538  
 539  
 540  
 541  
 542  
 543  
 544  
 545  
 546  
 547  
 548  
 549  
 550  
 551  
 552  
 553  
 554  
 555  
 556  
 557  
 558  
 559  
 560  
 561  
 562

恨世急

少時

救うに方いふにやいぬれども

續子載

月夜懷志

羅中興云雄

[illegible]

新收稿

人皆恨也

今上御製

人傳ふといひて是を其の事やと云ふは

多張

いふはふりうたぬるの樂をたぬ人のたぬ  
中になつてゐる人々をたぬるしうたぬる

師惠

歌まゝはあつてゐてもうくはてあつて恨そーうね

不被惑

物及

[illegible]

五

牙恨志

惟宗廣言

*[Handwritten signature]*

新張

惟宗克吉

新しき世に

牙有恨意

多張

Handwritten signature: *Wm. L. G. G.*

牙恨終忘

漢人不知

新編

子之於我如中夜之夢

宣和

とちあまのこころをみよとてふ



鳥次

鳥次

鳥次

懷終意

法華意

立聞終意

精政

懷終意

極義院權大綱

花東為景

同

同

懷終意

懷終意

津守為道

呼兼

懷終意

懷終意

花東為景

懷終意

懷終意

花東為景

呼兼

~~~~~


恨悔意

後世

目撃

上天下

目撃

始

冬後

昭昭

恨人

意

恨人

後世

師

恨人

恨人

後世

恨人

恨人

恨人

恨人

恨人

恨人

恨人

肝葉

~~~~~

經久意

友東隆信

~~~~~

経後被入

雅經

~~~~~

寛入意入

月

~~~~~

意入意入

物取

~~~~~

入意入

右左

~~~~~

入意入

保義指

新橋

~~~~~

肝葉

~~~~~

~~~~~

~~~~~

意入

~~~~~

意入

雅經

~~~~~

意入

新橋

~~~~~

意入

雅經

~~~~~


思移蝶恋

初改

~~~~~

後直

相逢思恋

光俊

~~~~~

几雅

蝶恋思

大徳正行寺

~~~~~

牙片思

初改

~~~~~

舟常片思

慈親

~~~~~

後直

舟舟初思

菊園たき屋

~~~~~

舟舟初思

秋行

~~~~~

後直

舟渡思恋

高道

~~~~~

後直

舟枕思恋

光俊

~~~~~

舟舟思恋

秋行

~~~~~

後直

舟舟思恋

差京家次

~~~~~

後直

舟船思恋

高道

~~~~~

後直

舟舟思恋

~~~~~



續於選

万里长征万里征

工部局の管轄する区域に於ける

齊民要術

鎌倉時代

つれぬりもあふるに神をたふしりあらねえ

奇芳齋志

正之德乃三寶

ひよこを養ふなり常々云ふありて親の如し

王

寄細意也

黃克同入京前呈上

いまだひそかに常盤をゆるぎのちのらうに

寄懷懷志

從之經光成

ほら 毎朝 十時 後 寝 ぶ 人 の せ じ ず け ず け

齊東野語

後之從忠定

新編  
三書系

齊丹陽志

如所

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

寄月懷志

わが秋の月命を新

前大田守

[illegible]

天皇

後  
續  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

齊民要術

後從研氣御製

初稿  
 初稿

堀川義國公

此の書は、  
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

寄張心志

傳後行

傍に  
 〆



凡雅い

奇情云

権大綱云宗

も

奇情云

院御衆

語

奇情云

奇情云

奇情云

耕云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

耕云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云

奇情云



最次

あはれなる心なりけり

奇翠意

後者如雲

あはれなる心なりけり

奇翠意

あはれなる心なりけり

奇翠意

あはれなる心なりけり

奇翠意

後者如雲

あはれなる心なりけり

奇翠意

耕

あはれなる心なりけり

奇翠意

あはれなる心なりけり

奇翠意

奇翠意

あはれなる心なりけり

奇翠意

耕

あはれなる心なりけり

奇翠意

あはれなる心なりけり

奇翠意

後者如雲

あはれなる心なりけり

奇翠意

後者如雲

あはれなる心なりけり

奇翠意

耕

あはれなる心なりけり

奇翠意



奇縁意

物語

奇神楽意

花長

奇催馬樂意

若菜経経

修成卿

小岸辰

奇物語意

鎌倉五右衛門

奇原水物語意

源入主

奇津氏意

修成卿

奇風俗意

小岸辰

奇蚕豆

若菜経経

奇雨虫意

耕ヤ

奇秋楓意

奇織俵意

奇縁意

奇神楽意

奇催馬樂意

奇物語意

奇原水物語意

奇津氏意

奇風俗意

奇蚕豆

奇雨虫意

奇秋楓意

奇織俵意

奇縁意

奇神楽意

奇催馬樂意

奇物語意

奇原水物語意







新婦古

<sup>後</sup>ふちあつてきえりゆのる<sup>れ</sup>

後宮

一葉の帯をうけぬちあはれとてあむしとてさへ 芳のおくさうふ  
もちやとて一夜をあひのちあはれたふささあはれとていづるより

家

て夜に神々の霊は夢に現はれしといふては人の契と

李隆

いよいよちやうとわが家へ来たやうな感じがする

奇照射急

粉政

我々をいふに、わがやうなものは、  
たゞのちやうど、

齊推夫急

清江集

之經を以て凡そ之を以て染糸の爲に用ひて

忘情

Handwritten text in Devanagari script, likely a signature or name, oriented vertically.

定中家

[illegible]

寄謝人急

後集

[illegible]

意德

手動の神

三石

神皇正統記

齊商人志

後市花

此の書は、  
江戸の  
名士  
の  
書  
に  
あ  
る  
と  
い  
ふ  
事  
が  
あ  
る  
。

总括

Handwritten signature or scribble.



宣旨

長安府の事は、  
宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨







袈裟烏佛塔

必隆

何事も計はるゝと云ふは、  
 終末来世必得成佛

於未來世必得成佛

吾をかりふゝゝりや法とくゝゝやゝゝゝゝん世に安んじゝゝやと  
 義於愛中相見所事

養於愛中則見好事

其乃火燃

其乃火燄

ちんじをいほのめし かりとなくゆも ぎをば けりあきまほ  
 私言深水海

弘誓深如海

みちのくは海をうへつゝる法の海をもうへてゐる

摘題和哥集

雜

曉更寢覺

定家

ゆきやうものねーさきふねあらーいさのちー

周

為家

柳ふさふさ如く春風を吹く

同

為定

俊のふたなりをうへに  
 ねあはれしそふにうへに  
 ち

問

阿佛

そのねに取らんがまを  
あつたてゝおとす

曉更冬爐

意法

清々として  
望みありて  
灯を点けし  
時ぞとわらふ

海島曉雲

定家







いささかたれとあまのこころのいさなをさるる

常山松風

慈張

あを月ふくやうくんとしちやうのしづかに

暮す江波

定家

あふれわたるるいさかたにあらはれぬ

常言觀所

同

さうとふまのうしろのうしろのうしろのうしろ

遠山音風

雅任

あふれわたるるいさかたにあらはれぬ

御幸一園鐘

慈張

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

雪後風夕

右筆

さうとふまのうしろのうしろのうしろのうしろ

菅島石衣

慈張

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

幽徑苔

伏見院御製

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

巖苔埋路

慈張

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

浪洗石苔

定家

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

同

馬家

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

同

馬家

いさかたのうしろのうしろのうしろのうしろ

同

馬家



[illegible]

浪聲混雨

大幼、小園

子河の事解し波乃ゝ急ぎに  
贈るは心をきくまに

乙中龍水

法印印

多連そよめき 海に花ふねより ちちる海潮の音のやけと  
 倭文

月

定家

まゝにやちやあにほまゝと尊うもいふ

17

為家

今もあまのうみをめぐりて  
 人みなわかれあつて  
 潮力いそぐ

同

為定

胸のきもゆたきうぢなれにら水ふくくくくくく  
 考んくくくくく

17

13 俾

金五郎いふのふにうれあいうりあやういあやう

長河似帶

欽  
可

玉子のふのきぬをいぢらうこえねや願く井のしる常

河水流清

定方

瓶の清酒は、  
文句をあれ  
うへに飲  
るもの  
を

同

為家

[illegible]

同

為定

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

同

河佛

[illegible]

流水浸雲根

頓河

あまのうやふくろあはれゆきかちゅうもねつるきさめを風

大行

源光行



羽衣

山陰後行

如新法師

羽衣

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

行人過路

お大仰てあ氏

後行

わづかのゆめをいつゝもねを秋のゆめを

言智行衆

大仰て強信

羽衣

夕日たゆまじく旅人を見つゝふやまを

雲衣露衣

お大仰て愛意

義

たふ衣をいつゝもねを秋のゆめを

行衣林松

慈信

うのふにいつゝもねを秋のゆめを

行衣林松

慈信

後行

わづかのゆめをいつゝもねを秋のゆめを

海路日記

新田田丸大長

後行

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

同

慈信

みづのふにいつゝもねを秋のゆめを

同

慈信

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

雲外眺望

呼童

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

江上眺望

後二位行衆

羽衣

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

湖上眺望

定家

つゞきやふたりしつゝねを秋のゆめを

海路眺望

後二位行衆











もを東へふりてはしるし田あふみの集れぬるにわのまのり

池上松風

溪雲松風

松の影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

洞庭古松

龍虎正古松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

同

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

古松年久

松竹

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

意松裁竹

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

松園竹風

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

竹島師

小松虎正松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

植竹為友

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

西都羅竹

同

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

西都羅竹

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

同

意松

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

同

為定

あふみの影ふりてはしるしあふみの集れぬるにわのまのり

同

乃佛



うへにのふくさるるちのちふりしつたふりしつた

雲うみ

二條院にじょういん

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

師し

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

同

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

一漢雲馬

院いん

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

雲うみ

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

山さん

同

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

山さん

定てい

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

同

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

同

慈じ

ふりしつたふりしつたふりしつたふりしつたふりしつた

同

河か







かりほさるるをうらなひてはなれぬとてふ事なりとていふはなれぬ

田家幽思

同

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

田家幽思

中初之巻長

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

同

巻長

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

田家幽思

中初之巻長

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

田家幽思

師兼

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

田家幽思

中初之巻長

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

後撰

同

法下覚實

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

雨申院

院御製

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

書院御製

師兼

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

田家幽思

太上天皇

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

田家幽思

仁初之巻長

まはれぬとていふ事なりとていふ事なりとていふ事なりとていふ

田家幽思

光俊

いづれにてもあふ神あまの神のまはれぬとていふ事なりとていふ

盧山雨夜茶席中

貞慶上人



後藤

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

東馬志由

定家

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

野隱士

師兼

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

隱士山

前美綱の経任

後藤

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

大徳在朝市

権正圓性

後藤

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

病住能懷

西園寺入道

後藤

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

市思首

田舎院入道

後藤

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

後藤

西馬志由

大徳在朝市

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

西馬志由

後依見院

凡

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

通心年を深

西行

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

月希延思

後依見院

凡

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

對月思首

秋河

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

見月志首

深仲綱

凡

あまのうみをのぞきしに 雲のうらみもさへみえり

後書達首

清人下志



新橋本  
今いふ新橋本は、さういふ人々の筆のこゝろみ

逢友多友  
完盛法師

七  
指

いふむきやあめつちをひらいてはうしろのそとにけしきあるが

逢友志青

西行

蓬友志青

西行

今更に神ありき

天色無情淡

軟阿

[illegible]

天地無隔

同

大正十一年の三月に、  
東京府立第一中学校  
卒業生として、

世路山河險

惟賢上人

わがやうなものは、

春生人夢中

九氣支頸痛

吾々此の世に生るるは

子月

後重德

たのしみは風をふくむ海に波をたたく

柳垂門前

從之臣穆政

美御前

年々春安生

黃炳正書

うめしなまをうにきうをきけりといふしきあひわらん

寄范思軒

卷之五

おきくはあはれにうきうき

山作夏興

祝部行款

[illegible]

高山待月

定家

新編のあはれしをいふと月とらん

周

為家



あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 為

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 乃佛

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 照山 法服長真

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

池 上見月 後者の虎中製

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

池 月 久的 鴨田虎中製

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

蒲 青月 入道一品親王永明

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永泰情 小侍長

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永泰情 市川虎中製

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永言志 九中侍教長

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永言志 雅臣

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永言志 勝命法師

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永言志 定家

あはれなる心なるをいふはなほいふはなほ

月 永言志 為







~~~~~

照夜青

後重

~~~~~

日

日

~~~~~

月

月

~~~~~

日

日

~~~~~

日

日

~~~~~

出

二

~~~~~

修

楚屈

行

~~~~~

修

四

源

~~~~~

日

又

徒

~~~~~

優

好

~~~~~

偶

雅

~~~~~

伯

師

~~~~~

ハ

雅


~~~~~

高名

同

~~~~~

大尊命

同

~~~~~

同

定次

~~~~~

云事

後方の足御製

~~~~~

士族

後札

~~~~~

元服

定次

~~~~~

了

西行

~~~~~

兼

後

~~~~~

太刀

同

~~~~~

刀

衣笠内書

~~~~~

騰行

後

~~~~~

沓

和泉式部

~~~~~

排頭

衣笠内書



九方たふしりし樂より

廣衣

雅徑

あつたふしりし樂より

双六

同

あつたふしりし樂より

鞠鞠

同

あつたふしりし樂より

拾貝

同

あつたふしりし樂より

息石

同

あつたふしりし樂より

碓

光復

あつたふしりし樂より

魚梁

知長

あつたふしりし樂より

櫓

大貳

あつたふしりし樂より

寺極

雅徑

あつたふしりし樂より

屋破

親隆卿

あつたふしりし樂より

岩屋

後宮極

あつたふしりし樂より

仙室

雅徑

あつたふしりし樂より

仙宮

顯仲



御祠

為家

酒

為家

葉

廣人

出湯

顯仲

木

定家

火

後家

土

同

金

定家

水

後家

東

定家

西

同

南

後家

北

同





あはれふきの波をさるるうみねのわきま

旅宿春夜

旅宿夜

きねに都のちの草花はれはのつるきよきわのけ

月前旅宿

旅宿春夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

月前旅宿

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

月前旅宿

旅宿春夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

月前旅宿

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

月前旅宿

旅宿春夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

同

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

同

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

同

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

旅宿春夜

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

旅宿春夜

旅宿夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

旅宿夜

旅宿春夜

あはれふきの波をさるるうみねのわきま

旅宿夜

旅宿春夜

凡雅  
あしあし　　あふ　　ちふ　　ふ　　ま　　か　　ね　　あ　　は　　る

張君仁風

定家

あはれ事なげぬうき世に枉風ふらり室人や憂むらん

臨江府志

書家

日  
 是

同

乃定

勢ふりぬの神ふさふさあはれ  
 張和波志す  
 定永

張和波書

定家

中々うゝまゆらうにやう波め、御ふかた神をまじへり  
 神水猿蓑 為猿

冲水猿和

善法

神人のあふまけなりともゆきそ神ふく海なるに  
 智而張亭  
 教覚法師

智而後立

教覺法印

續拾遺  
こゝろを靡たるゝまゆみやうゝ垣ねを秋のそよ風

新清古

旅汴辛辰

西之信義重

きやほのふのふにたふもてはてしなくふた

海濱之夜

前

月  
 夜を月を待つと云ふきく波もあはれなる秋  
 後を月気

月

後有明虎

新中道日  
成島守貞日新志士

薪中送白

咸豐辛酉四月

同  
堂蓮法師

同

登蓮法師

王のりともみけをさるる猿のけしきにふふさう  
霧中晩日 巻五

霸冲晚日

李漢

新中々露  
 隆金太郎

霸中夕露

鎌倉大仏院





乃續長  
むーうーうーうーうーうーうーうーうーうーうーうー

月新思緒事

[illegible]

月氣談雜事  
雅經

月みづかばを夜しきけはむけむしとてまふしとての糸

國族維新  
師意

原稿  
 本  
 手  
 入  
 帳  
 簿  
 の  
 写  
 本  
 一  
 冊  
 あり

往事如夢  
從從如夢

引もは一帯は愛とふいふもやのいふれもゆて久し

法眼行錄

續前

うゝあめいかに五ふやもろくつと軍をあげし

往事似夢  
蒼桑完成

續後撰  
ふまにうつりまじりしをさへみよむといふものなり

同

晋光園入道芳園白九

傍海拾遺  
 乙卯年正月一日

獨思雜事  
仰意

かゝるものゝ中から、<sup>二</sup>最も<sup>一</sup>よいものを選び出す

世法如夢  
心法上人

乃後  
 其の事も憂ひしやと云ふ所  
 なるをいふ

愛護故人  
慈孫

[illegible]

風波曉夏

今更之源山松乃一山也其山形如月形故其山名曰月山

松風破夢  
雅徑

都より一里路にありき。はなはた松の葉うか

風聲  
如浪

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor creases and discoloration, characteristic of old paper. On the left side, there is a dark, textured binding edge, possibly made of leather or a similar material, which is slightly worn. The overall lighting is even, highlighting the subtle variations in the paper's color and texture.





信濃

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

同

有東家

新嘉

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄市速懷

玉部卿為孫

り

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄林速懷

仲書

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄漸盡速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄也速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄錦速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄衣速懷

師書

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄衣速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄柳速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄書速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄筆速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄天速懷

同

いんげんようじんうりもろのちかたきしるいもろい

寄為速懷

同



~~~~~

奇形速懷 同

~~~~~

奇形速懷 同

~~~~~

奇形速懷 同

~~~~~

奇形速懷 同

~~~~~

奇形速懷 玉階廣

~~~~~

奇形速懷 師兼

~~~~~

奇形速懷 如行

~~~~~

奇形速懷 縁上人

~~~~~

奇形速懷 慈徳

~~~~~

奇形速懷 文達法師

~~~~~

奇形速懷 西行

~~~~~

奇形速懷 慈徳

~~~~~

水邊速懷 同

人々をいへりていふる所ふれはつて現るの井たけり

船中速候

定家

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

新中速候

権中細と三時

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

後行速候

馬場御元と三時

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

行張速候

東御元と三時

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

行張速候

東御元と三時

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

遠国速候

西行

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

船中速候

定家

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

船中速候

定家

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

佛前速候

定家

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

社頭速候

後より信御元

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

国中速候

西國守御元

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

山家速候

定家

船中速候のつていふる所ふれはつて現るの井たけり

夢中速候

後より信御元

續撰述

ほねうしやけふ移れぬをえくまふいふまゝのまゝ

月
前
懷
旧

源經行

新

世に於ては、乃秋のちるもさきくけうふ神のちる邪

聖懷

平貞行

彭濟長

ふんぞりてさへいづるもあはれ

霞懷回

師承

海語懷旧

定家

山寺懷心

卷之五

氣

酒を飲めば、心もさういふ遠くまで行く。

同]

卷五

[illegible]

山家懷
110

同

懷石

同

蒼懷

耕雲

周生懷印

同

同

師柔

愛中懷也

耕

寢先懷而

同

しるしをいふことなり

市無常

徒二信

新抄

本はあつていふことなり

同

後

しるしをいふことなり

同

定

しるしをいふことなり

日催母常

信

凡雅

しるしをいふことなり

日催母常

極

しるしをいふことなり

同

西

しるしをいふことなり

市無常

徒

しるしをいふことなり

市無常

達智院

新抄

しるしをいふことなり

同

信

凡雅

しるしをいふことなり

同

定

しるしをいふことなり

市無常

信

しるしをいふことなり

市無常

同

しるしをいふことなり

市無常

同

Handwritten musical notation (first line)

五身如類

雅經

Handwritten musical notation (second line)

五身如類

同

Handwritten musical notation (third line)

五身如類

同

Handwritten musical notation (fourth line)

五身如類

同

Handwritten musical notation (fifth line)

五身如類

同

Handwritten musical notation (sixth line)

蓮花初開

同

Handwritten musical notation (seventh line)

身相神通樂

同

Handwritten musical notation (eighth line)

五身如類

同

Handwritten musical notation (ninth line)

使東不返樂

同

Handwritten musical notation (tenth line)

引接後樂

同

Handwritten musical notation (eleventh line)

五身如類

雅經

Handwritten musical notation (twelfth line)

見佛開法樂

同

Handwritten musical notation (thirteenth line)

隨心供佛樂

同

~~~~~

天龍圖

同

~~~~~

天耳圖

同

~~~~~

宿住圖

同

~~~~~

地通圖

同

~~~~~

神護圖

同

~~~~~

歡喜地

定火

~~~~~

無垢地

同

~~~~~

桑光地

定火

~~~~~

熾惠地

同

~~~~~

難勝地

同

~~~~~

現前地

同

~~~~~

遠行地

同

~~~~~

不動地

同



天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

天竺國

天竺國 同

おのころのうへにふくみしるはふにふくみしる

絹唐紙

同

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

金剛部

意匠

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

蓮華部

同

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

上品上生

知覚法師

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

同

桐文入

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

上品中生

入谷前橋大工

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

後橋

同

尼祥恵

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

上品下生

後京極

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

同

所望

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

中品上生

大系河

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

同

和相

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

中品中生

右大將

ふくみしるはふにふくみしるはふにふくみしる

同

義孝



ちきつてゐるにたがひのきつてゐるにたがひのきつてゐるに

中品下生 阿鼻劫縁

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

同 阿鼻劫

すてやうにすてやうにすてやうにすてやうにすてやうにすてやうに

上品上生 淨土維那

ねえあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

同 定水

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

中品中生 阿鼻劫縁

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

同 入道三位

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

下品下生 蓮生法那

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

同 禪定上人

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

不殺生戒 法服宗系

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

不偷盜戒 法行行徳

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

不邪淫戒 律然法那

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

不妄語戒 惟宗宗景

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

不酤偽戒 律然法那

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

不慳貪戒

法服宗系

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

不説四衆過罪戒 權傍正道戒

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

不自讚毀他戒

權人宗系

後修撰

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

不瞋恚戒

師兼

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

不持三寶戒

權人宗系

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

大宅余

師兼

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

窮子余

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

雲雨余

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

化城余

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

繫珠余

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

醫師余

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

空諦

同

其のしるふれちるまをいひしるふれちるまのしるふ

假諦

同















~~~~~

尸羅波羅密

後京極

~~~~~

毘梨耶波羅密

同

~~~~~

摩揭波羅密

同

~~~~~

釋迦羅密

同

~~~~~

般若波羅密

雅經

~~~~~

維摩經

小教

~~~~~

千手經

法部蓮秀

~~~~~

大目經

龍門高方

~~~~~

佛舍利

軟門

~~~~~

金光明經懺悔品

信正實瑜

~~~~~

常賢經

雅經

~~~~~

阿彌陀經

後成

~~~~~


法のちきゅう人の仕事として海防の切を待てるべき

心經不增不減

欽定四庫全書

新後撰書
いねのけり
世にしる

色即是空

曠西上人

續多載

觀無量壽經得益分

信生法師

新後移送

無量義經

選子肉親王

修後夜
無義
所

うゑりふそは佛のあひまをさう那

舍利讚歎

定家

こゝろは不羈の志なり
個として物といふは
龍のこゝろなり

錫杖

大德心明

糸物
 金木
 糸物
 金木

同

小舟

新橋本
うき世に愛をいふはもて海に舟をたづねては

空觀

法印實錄

[illegible]

觀心

西行法師

やみぢく心のまにまに
あふちくちくぬ

無心所著

後京極

泊瀬ふくろおとす

大圓鏡智

雅經

Eintheilung der Kunst in drei Theile

妙觀察智

入道者園田太政大臣

漢書と
 如前漢書
 通志國史本紀

衣裏明珠

高坂上人

初

松のトといふの葉ふとも海の袖れり

維摩會

後醍醐天皇

初

沙門三昧うきけし法蓮とてあゝのこふ海とて

大經

後成郷

かゝる月のみあはれをあらわす鶴の梅の根を

葉師

定安

すなわち二のうききとてみまふはれいり

寂述

同

二月のうきはのこころを春の都とておし

多寶佛

雅經

とていふはのこころをあらわすやいふは

法勅

定安

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

大目

同

とていふはのこころをあらわすやいふは

地蔵菩薩

慶政上人

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

河津虎

定安

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

神日本無余天皇 大江千吉

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

玉依姫

三統理平

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

後田彦

紀泮望

あゝいふはのこころをあらわすやいふは

月夜見守

深志

初 イ 天兒屋根音

川 天兒屋根音

同 國常立音

同 中照服

同 天兒屋根音

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

同 三種宝物

新衣

平家源氏の松のたてを

社頌強菊

雅經

[illegible]

社稷霜

復為河東製

しやうりくをいふに、
しやうりくをいふに、

社説

德三氏久

後漢書

ほろろくもなごんまの神作のすゝめたる白雲

社類文

後方的侵略和表

多摩川のほとり

社稷重風

同

わのそふゆめんうげらにせうい

社稷

善

今更のぬのあはれんよわを細く行きてしひのひふたつ

以煥換

社賴速懷

莫納之為友

79
 4
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 52

寄鏡神祇

前九天

凡雅

九重に降る心持のききうけとてあはれむ

寄月神紙

達智門院

新撰

とりの卵ふそくはの母とてはく 神家のいにおは月し

寄吳神祇

軟

Handwritten signature: *John W. Smith*

寄神速懷

同

[illegible]

寄神祇院

後有虎即殺

神風や空の柳葉がわらうとみえすを河津東にあらはれ

稻舂哥

坂田郡

後成

悠記方近江
風俗和奇士青

三月

松久不校うつかいさうあそびの春やあかん

山吹落
歎冬臨峯水

水のふみれんがしりふんはせんとくはれん

大龍山
卯年國山脚中多

布衣の星相家

丙帳
五六月

長澤池
陽午日人摘葛藤

うさぎは池のりやもふつらうあふふふふふ

音田郷

ち水より雨のふゆをわきまを

玉藻井 水边松藻有網藻之人

いもゆるむけの井はくちふあまのむをねんそく

丁未 七八月

高宮卿 七夕習引糸し歌、

七五三 錦いしうねと雲のうねり

表笑浦 月浮水人見之

下月はいりてくるにむかしより

玉冲原
秋花開

病者に云の薬をいかに服せしむべきや

戊午
九月

吉野 多人求藥免於水

くも世の秋とてし業はむとせうつら衣の望

大藏山 山脚民家多植稻

松を植はつるのほそふちをわたりて松のうへに

松葉の岸 松樹の影のうへを

もくろふ松の影のうへをわたりて松のうへに

己作 三月

子坂浦

さるる松の行客見之

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

仁安元年十一月三日

松の影

松の影のうへを

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影

松の影のうへを

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松の影

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

同

松の影のうへを

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松の影

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松の影

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

松の影

松のうへに松の影のうへをわたりて松のうへに

松の影

松の影のうへを

新松道

~~~~~

花契万春

と出川入るあたふ

同

~~~~~

大仰の俊明

後松道

~~~~~

至多の春友

後光厳院中親家

新松道

~~~~~

松色深沈

太上天皇

後松道

~~~~~

後醍醐天皇

後松道

~~~~~

松影深沈

京極の園田大政大臣

新松道

~~~~~

松枝映水

東征の太政大臣

新松道

~~~~~

松枝映沈

平賀院の太政大臣

新松道

~~~~~

松色映水

今上御製

新松道

~~~~~

松有春色

前太政大臣

新松道

~~~~~

松色佳色

前太政大臣

新松道

~~~~~

同

御製

新松道

~~~~~

松色景色

前太政大臣

新松道

~~~~~


五

美作と君ふうきめね夜のうちにくるしとていふ人

新報

對松年齡

權中幼之秉光

うはら松のふしし居ゆもわふ春の初

同

後成

うき世の風流をうけつゝ

國

金道前閣白太監之後

[illegible]

同

糴及

参の日はふてゝ
原座の由を松のうゝとに
君^{てい}料^{りょう}とや

松延齡友

推大綱之明

後松茂

[illegible]

同

後寧極

あまのこころをうけとる

新張古

春松挺齡

後有以爲即製

松本はくわい道

九雅

村中裏松久

從仁濟將

多岐のふしをいふつるふたねまづはあはれ

後於遼

松久壽久

漢字を
なす

ちよふは松のふとハ君の代りつきの歌ふおけ

松樹春人

太上天皇

新樓於焉

↑
又、さういふふうのやうなところから、こゝろをまへて、乃々の春

松色春久

園屋入を並べ改大改大

五

さうなればともなひのち^ちねふ春のあつてゐるらんらん

同

卷八

いふを而も抑へざるやうにねもなすれど

庭松奚久

咸豐二年閏四月

新修

松の葉のふやけなりて木敷の庭にふけの枝をかく

多載

松葉散年

源俊賴

神代よりいふにやうにふけの枝をかく

松葉散年

後鳥羽院御製

うきよのふけの枝をかく

松葉散年

後鳥羽院御製

新修

ふけの枝をかく

松葉散年

大徳寺の御製

新修

ふけの枝をかく

春松散年

大徳寺の御製

新修

ふけの枝をかく

松葉散年

大徳寺の御製

新修

ふけの枝をかく

今案

藤元親松

大徳寺の御製

ふけの枝をかく

藤元親松

通陽の院

新修

ふけの枝をかく

松葉散年

後鳥羽院

ふけの枝をかく

松葉散年

松葉散年

今案

ふけの枝をかく

同

富貴入るる園の松の枝

新修

ふけの枝をかく

同

富貴入るる園の松の枝

新修

ふけの枝をかく

松葉散年

富貴入るる園の松の枝

凡雅

わあやまのけりおのりておのりておのりて

竹遊年友

院御歌

あかきけりおのりておのりておのりて

同

万松門院

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

後成卿

多載

あかきけりおのりておのりておのりて

雪中早苗

法親王入道前園白太政大臣

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

人妻親月

前園白

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

院御歌

推御の後忠

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

大御の御歌

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

富家入道前園白太政大臣

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

月日松久

前園白太政大臣

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

元大信

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

池月添光

前園白太政大臣

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

前中御の基隆

信多載

あかきけりおのりておのりておのりて

同

前中御の基隆

同

あゝあゝうゝわいふのやうに泣く

同]

是以僑居外國而死者

同

わづなれいりきお物付を月かぶるごととあるは水

沌月之明

既入乃去

續古

君よこれぞのたまはしるす月やとほや下る清水

同]

常細意定矣

新物換

[illegible]

同

正三位象

清江移道

[illegible]

同

光明峰主人前接致大文

新編古

[illegible]

同

雅經

池のふちをまゐる夕の空の月を眺めよう

沈月秋

吟

沈みぬくやうな心持で、おぼろげに、

久埃明月

河内縣志

五集

[illegible]

月多秋友

後有元御製

物事此をその秋とつめらうおれもよその日あうん

月万秋友

船

時をさるゝは菊のあやて
 秋のよせな

菊蕊宴人

飛之院印

續子載

[illegible]

殘氣映水

權衡之妙

彭勃

神母のうきうきと白雲いふし
花のうきうき

菊老烟久

太宰權帥為經

後後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

菊装多秋

ほけ入るあふ改大后

多載

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

菊装多秋

結髪内院城川

後後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

同

後二条内院

新後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

雲龍樹葉

皇太后宮女更後成

後後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

鶴羽和

銀宏院院内院

後後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

同

権内院女更成

同

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

鶴羽和

後二条

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

鶴羽和

後二条

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

鶴羽和

大徳院内院

多載

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

同

宮内卿水花

見雅

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

同

後二条

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

同

花永

後後透

いふふくをそねたれもかたはる人のあつたことゝのききあひのき

花水久澄

源満教

新撰

あつたてのうたをうたへていふたのうたをうたへていふた

河の久遠

清浦

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

同

後集

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

仁美林典

九道中の人雄

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

田原西武

新園

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

為君初世

新集紙推音

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

社類祝表

雅臣

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

子日祝

秋

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

寄日祝

新集紙推音

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

寄月祝

後集紙推音

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

寄星祝

法下集

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

寄花祝

耕

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

寄通祝言

民部卿

新撰

うたをうたへていふたのうたをうたへていふた

社類祝言

延

